

# 会 報

## ◇奈良大学史学会総会

五月三十日(土)、本学において、第十六回奈良大学史学会総会を行った。一九九七年度の決算・会計監査報告及び事業報告が行われ、ついで一九九八年度の役員人事案・事業計画案とそれに伴う予算案が提案され、それぞれ原案どおり承認された。

一九九八年度の役員は以下の通り。

### ▽会長

水野柳太郎

### ▽副会長

明石 岩雄

### ▽教員委員

#### (監査)

藤井 學

鎌田 道隆

#### (編集)

青木 芳夫

#### (庶務・会計)

菅野 正

#### (庶務・交換)

森田 憲司

### ▽学生委員

#### (代表)

古市 一志

### (副代表)

湯本 可奈

### (総務局長)

島袋 静佳

### (広報局長)

和田 寛樹

(青垣祭企画実行局長) 都築 隆人

### (四回生委員)

荻澤 京介 石田 俊一 大見 剛彦

久山 良子 高倉 啓輔 田中 元浩 戸塚 裕介

豊嶋 睦 鳥山 剛 中野由美子 藤田 梨恵

堀 美由紀 水原 理絵 森本 博史

### (三回生委員)

岡本有希子 川上 裕司 川崎 雅之

川野 哲 杉浦 茜 東條 弘周 中内 百恵

林 勇樹 福山 麻衣 藤田由美子 本郷 統章

道田 悦康 依光 讓治

### (二回生委員)

石橋 尋志 小田 奉路 垣下 高継

神崎 前 神田 徳紳 神戸 雄佑 木下 一誠

木村 祐子 小森智香子 柴田芽求美 曾田 洋子

竹内 通泰 二宮 猛 松本 祐也 安田 道人

山形 和也

### (一回生委員)

飯塚 直紀 竹岡 健次 城野 岳雄

中村 祐子 平畑 典之 堀之内寛郎 水本 暁子

森 和徳

### ◇特別講義

五月三十日(土)、史学会総会に引き続き、特別講義が行われた。講師・演題は以下の通り。

井上 浩一氏(大阪市立大学教授)

「聖ソフィア教会に描かれた皇女

——皇女ゾエと十一世紀のビザンツ帝国——」

和田 萃氏(京都教育大学教授)

「蜂と蜜蠟——一つの古代史研究法——」

### ◇青垣祭

「奈良町の民間信仰——庚申信仰を中心として——」をテーマに展示発表を行った。会場では奈良町家屋の復元模型、庚申信仰にまつわる三猿や歴史を展示した。期間中に三百名近くの来場者があり、青垣大賞編集部で三位に入賞するなど内外から高い評価を受けた。

### ◇伝統工芸体験ツアー

前年度に引き続き、伝統工芸体験ツアーを実施した。本年度は十一月八日(日)京都山科を訪ね、清水焼を体験した。陶芸への関心も高く、本学科学生だけでなく他学科か

らの参加もあり、非常に好評であった。

### ◇「史学会会報」等の発行

「史学会会報」は毎月発行し、史学会の企画案内、近畿の史跡や祭事等を掲載した。また例年に引き続き、一回生の参照のために「講読紹介」を発行した。

### ◇会員動向

○青木芳夫氏(西洋近現代史担当)は、今年十一月出版の『広辞苑』(岩波書店)第五版で「米国(中南米)史・地名」の校閲を担当した。

○鎌田道隆氏(日本近世史担当)は、安田真紀子氏との共同執筆により今年三月『江戸時代で遊ぶ本 からくり玩具をつくろう』(河出書房新社)を出版した。同研究室によるユニークな「実験歴史学」の試みの成果である。

○北村麻子氏(西洋古代史担当)は、京都大学より今年三月二十三日付で博士(文学)を授与された。なお、博士論文の題目は「古典期アテナイにおけるフィリアと共同体——親族・ヘタイレリア・国家」である。その一部を特殊講義で公開している。

○菅野 正氏（東洋近代史担当）は、戊戌維新百周年・北京大学創立百周年にあたって、中国史学会・北京大学共催で、八月二十日〜二十三日、北京大学・達園賓館で開催された「戊戌維新一百周年国際学術討論会」に参加した。当会で、戊戌維新運動に関する一篇の研究報告を行ない、中国内外の研究者と交流した。また、故宮博物院で「戊戌変法一百周年記念展覧」を、北京大学で「校史展覧」を参観した。

○守山記生氏（西洋中世史担当）は、今年三月にガルベール・ド・ブリュージュ『ガルベールの日記——中世の領域君主と都市民——』（溪水社）を翻訳し、出版した。

## 平成九年度史学科卒業論文題目

### 【日本史】

古代における参議について

— 『歴史記』の史料批判を中心に —

古代の伝馬の機能

— 伝馬乗用の条件 —

中宮職と皇后宮職

中宮職の一考察

私度僧の実像

不比等功封の諸問題

雑徭の変遷とその性格

九世紀の地方行政に関する一考察

八世紀における謀叛関係者の処遇について

七・八世紀におけるキサキの称号について

奈良時代の蔭位制について

古代における国政審議の変遷

遣唐使についての一考察

古代における祥瑞の出現と処置

古代衛府の一考察

秋山 亮

新井 真樹

安藤 聡美

池田麻衣子

板野 美穂

井畑 明美

梶田 昌宏

加藤 克郎

神杉 香織

亀山 直樹

河野 園子

久保田 充

児島 秀夫

下山 聡美

高橋 周

八世紀の有力氏族没落について

高見 和哉

参議小考

田中 文

高麗氏について

田中 康大

「続日本紀」編纂について

西本 英夫

古代の皇后についての考察

三和田剛浩

―橘嘉智子について―

村江 唯七

国分寺について

山本 和幸

古代の伝馬について

大久保広幸

七・八世紀における渡来人について

細川藤孝について

―『日本書紀』『続日本紀』における渡来人の変化と推移―

正長期における大和の土一揆

細川藤孝について

西川 純

☆ ☆ ☆

十四世紀後半以降における赤松氏の領国支配

長谷川智彦

織田信長の尾張統一

相原 直

尊氏と直義の確執について

石井あすか

室町時代を中心とした但馬文化について

井上 妹子

―寺社組織と信仰を中心に―

―室町前期における北畠氏の存続要因―

細川晴元政権について

大橋 倫子

後北条氏の領国支配についての一考察

北口 薫

―早雲の領国形成―

三種の神器争奪をめぐる後南朝史の一齣

前久保宏江

室町期における日向・伊東氏の在地支配について

―西行廻国の歴史的意義―

矢部明希子

中世越中における時衆の展開とその退転

山口 勝也

―景愛寺・大聖寺・宝鏡寺を中心に―

高橋 正城

室町期尼五山の史的解析について

黒木 裕平

―検非違使庁を中心として―

治承三年の政変

阪本真喜子

戦国期の洛中土倉について

竹内 美穂

織田信長の商業都市政策

中井 憲士

―薬市・薬座令の諸検討をふまえて―

総見寺建立に見る織田信長の神仏観

花沢 一秀

正長期における大和の土一揆

藤生 卓也

細川藤孝について

藤原 夏来

正長期における大和の土一揆

藤原 知曉

十四世紀後半以降における赤松氏の領国支配

山本 直和

―播磨国を中心として―

尼子勝久の領土回復

山口 勝也

公家大名北畠氏の動向に関する一考察

山本 直和

―室町前期における北畠氏の存続要因―

戦国期における村上水軍の組織と活躍

山本 直和

三種の神器争奪をめぐる後南朝史の一齣

山本 直和

―西行廻国の歴史的意義―

山本 直和

中世越中における時衆の展開とその退転

山本 直和

―早雲の領国形成―

山本 直和

室町期における日向・伊東氏の在地支配について

山本 直和

— および「遊行二十四祖御修行記」にみる

越中衆像について—

— 数的見地と諏訪郡笠原新田の

事例からみた一考察—

瀬戸内塩飽水軍について

吉田 亮三

近世における民衆の治療文化について

西田クミ子

松永久秀と多聞山城について

小川 訓代

近世初頭における朝幕問題の考察

深草 哲朗

中世清水坂非人に関する歴史的考察

加藤 賢

近世の大都市における料理茶屋の発展

古川 友和

「立正安国論」を中心とする日蓮の天皇観

佐々木信喜

近世の子どもをめぐる諸問題とその歴史的展開

前川 英理

☆ ☆ ☆

近世後期の下総における村落指導者の思想と行動

赤木 健一

近世初期におけるキリスト教布教と在来宗教

三浦真理子

近世奈良における神鹿支配の構造

浅場みちる

近世における女性旅の史的分析

南 夕子

近世後期の高松藩における殖産政策の研究

池内 幸介

石川県における近代地域産業の確立

鍛冶 純子

近世旧大和川地帯における綿作の実態について

池田 修三

— 輸出羽二重を中心に—

片山 美幸

東海道新居宿と助郷の構造

今村 幸久

大阪における初期融和運動

菅原 大輔

近世の祇園新地の遊所化について

新谷 弘美

— 外務省機構と支那支配機構を中心に—

須藤久美子

近世江戸における防火都市対策

角之上千歳

近代マスメディアの形成と発展

辻本 洋一

近世大坂における都市内交通の展開

津村 典子

— 粉川騒動を中心に—

細川 健一

近世の大坂・京都における町年寄に関する考察

錦織 希衣

香川県における大正デモクラシー

— 市民政社の活動を中心に—

— 町触を中心として—

西澤 敏昭

信濃国における寺子屋の成立と展開

西澤 敏昭

— 町触を中心として—

西澤 敏昭

— 町触を中心として—

西澤 敏昭

岡山県における大正デモクラシー期の労働運動

安本 稔行

方臘の乱について

坂口 契治

後藤朝太郎の生涯とその業績

吉岡佐知子

安史の乱以後における唐代の漕運と藩鎮政策について

澤田 幸英

―大正・昭和期における中国観を中心に―

大正の漫画界の動向及び表現の発達について

田積 祐慈

宋代の治安維持制度について

田淵 勲

―「平漫画」を中心に―

管仲の思想

敦賀 久由

―管仲の民政と霸王論―

【東洋史】

宋代の漕運について

一瀬 尚樹

中国近世の醸造

羽賀 由佳

―沿辺三路への漕運を中心として―

唐代の薬物について

岩田 智恵

黄巢の乱

原 哲也

漕運の運営について

上田 英志

宋代の都市の市民生活

三毛 仁美

―主網者についての一考察―

明代における宦官と司法権の関係

漆畑 博紀

坊制とその崩壊について

宮澤 靖幸

―明代宦官による専横の原因―

西夏と周辺諸国との関係

大森 雅矢

魏晋国家体制と八王の乱

森本 晋一

漢代辺境の軍屯について

尾嶋 崇

☆ ☆ ☆

山岡 務

宋代の行

帯金 鈴子

日清戦争開戦に至る経過について

荒川 達哉

前漢末の政治情勢について

金定 哲生

―一八八〇年代の東アジア情勢における

―特に劉向と劉歆の思想から見る―

日本の朝鮮政策を中心に―

世界市場における近代中国市場の展開と変展 佐藤 嘉亮

神と王 高木 克彦

―アヘンと綿紡にみる世界市場への編入―

―シヌメール初期王朝時代における

カントンアヘン論の形成とその背景について 埜下 憲司

統治者の「神への奉仕」が示すもの―

文化大革命期における周恩来の役割 西岡 茂

古代エジプトの来世信仰 竹内 誠

阿片戦争に関する一考察 松井 重樹

古代ギリシア社会における教育と思想 中村 光恵

―風説書とその影響―

重装歩兵制からみるポリス社会 中山 義仁

カルタゴの滅亡について 長浜 弘幸

【西洋史】

―ハンニバルの内政改革をめぐる―

古代ギリシヤにおける神話と社会 市川 祐介

古代エジプトの医療 藤戸なぎさ

古代エジプト人の日常生活 今沢 恵美

隊商都市パルミラの当時の 商業活動にみる近隣諸国との関係 牧野 大介

紀元後五世紀における蛮族の侵攻とローマ帝国 大西健一郎

被征服者の側からみたガリア遠征 松原 康

ローマ帝政移行論 大西 史晃

―ケルト人の民族衰退の経緯とその要因を

ポンペイの人々 岡上 美穂

明らかにし、ガリア遠征の敗因を戦術的

―埋没都市が語る生の空間―

観点のみならず、その民族性から探り出す―

ローマ帝国におけるキリスト教浸透と民衆の心理

オリンピアの祭典 丸木 秀樹

―一世紀後半から二世紀の民衆によるキリスト教迫害―

古代ローマの裁判機構と権力の推移について 森尾 洋治

古代エジプトの神々 岸野 恵子

キリスト教の迫害について 森澤 弘之

古代エジプトの神々 杉山さなえ

古代エジプト人 山下 貴弘

―一三〇〇年の中の一七年―

―ミイラから推察するその死生観―

ユダヤ人の起源と旧約聖書

山野 陽子

☆ ☆ ☆

ビスマルク時代のドイツ  
一九六〇年代の米ソ関係

野原 雄介  
長谷川由貴子

ルネサンス時代のローマ教皇庁について

生田 忠士

― フルシチョフの平和共存を中心に ―

ハンガリーにおけるハプスブルク家支配への抵抗

鎌田 央保

現代フランスにおける移民問題について

松原 陽子

杉浦 武仁

ウァイマル共和国の崩壊とナチスの台頭

森本 仁志

ドイツ中世都市のコミュニケーション運動

杉浦 武仁

― ナチス支持と抵抗 ―

― ケルンを中心として ―

十二世紀ルネサンスにおける文化活動について

戸川 芳晃

ハプスブルク家の成立とその発展

永野 裕子

ルネサンス期におけるイタリア社会の変遷

福田 正武

― フイレントツェを中心として ―

西欧中世における庶民の生活

藤本 雅史

西欧中世におけるユダヤ人迫害

宮川 正浩

十六世紀から十九世紀初期までの軍事的変遷

門田 真輔

☆ ☆ ☆

メッテルニヒとウィーン体制

浅木 良子

ナバホ・インディアン

井口 麻衣

メソアメリカ文明と人身御供

大霧絵里子

インカ帝国の滅亡

鳥塚あゆち

受贈雑誌及び図書 [自一九九七年十一月  
至一九九八年十月]

雑誌

- 愛大史学（愛知大学文学部史学科） 第七号  
愛知大学総合郷土研究所紀要 第四三輯  
愛知大学博物館学芸員課程実習報告書 一九九七年度  
愛知大学文学論叢 第一一六、七輯  
アカデミア（南山大学） 人文・社会科学編 第六七、六八号  
秋大史学（秋田大学史学会） 第四四号  
アジアアフリカ言語文化研究（東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所） 第五四、五五号  
アジア研究所紀要（亜細亜大学アジア研究所） 第二四号  
アジアフォーラム（大阪経済法科大学アジア研究所） 第一五一七号  
岩手史学研究（岩手史学会） 第八一号  
お茶の水史学（お茶の水女子大学読史会） 第四一、四二号  
海南史学（高知海南史学会） 第三六号  
鎌倉遺文研究（鎌倉遺文研究会） 創刊号
- 漢学研究通訊（漢学研究センター） 第一六卷第三、四期、第一七卷第一—三期  
紀尾井史学（上智大学大学院史学専攻院生会） 第一七号  
吉備地方文化研究（就実女子大学吉備地方文化研究所） 第九号  
岐阜史学（岐阜史学会） 第九三号  
キリスト教史学（キリスト教史学会） 第五二号  
熊本史学（熊本史学会） 第七四・七五号  
ぐんま史料研究（群馬県立文書館） 第九、一〇号  
神戸大学史学年報（神戸大学史学研究会） 第一三号  
斎宮歴史博物館研究紀要 第四一七号  
史苑（立教大学史学会） 第五八卷第二号  
史海（東京学芸大学史学会） 第四五号  
史学（三田史学会） 第六七卷第二、三、四号  
史観（早稲田大学史学会） 第一三八、九冊  
史泉（関西大学史学・地理学会） 第八七、八八号  
史艸（日本女子大学史学研究会） 第三八号  
史窓（京都女子大学史学会） 第五五号  
史叢（日本大学史学会） 第五八号  
四天王寺国際仏教大学紀要 平成九年度

社会科学研究所(中京大学社会科学研究所) 第一八卷第一、

二号

就実女子大学史学論集 第一二号

資料館紀要(京都府立総合資料館) 第二六号

史料館研究紀要 第二九号

神女大史学(神戸女子大学史学会) 第一四号

人文論集(静岡大学人文学部社会学科・言語文化学科学研究

報告) 第四八一、四九一—号

住友史料館報 第二九号

聖心女子大学論叢 第九〇、九一集

青山文庫紀要 第五号

西洋史学報(広島大学西洋史学研究会) 第二五号

西洋史論集(北海道大学西洋史研究室) 創刊号

西洋史論叢(早稲田大学西洋史研究会) 第一九号

専修史学(専修大学歴史学会) 第二八、二九号

創価大学人文論集 第一〇号

双文(群馬県立文書館) 第一五号

高円史学(高円史学会) 第一三、一四号

橘史学(京都橘女子大学歴史学会) 第二二号

地域研究いたみ(伊丹市立博物館) 第二七号

千葉史学(千葉歴史学会) 第三一号

中央史学(中央史学会) 第二二号

中国水利史研究(中国水利史研究会) 第二五号

津田塾大学国際関係研究所報 第三二号

土浦市立博物館紀要 第八号

敦賀論叢(敦賀女子短期大学) 第二二号

東海史学(東海大学史学会) 第三二号

東京大学日本史学研究室紀要 第二号

東洋史苑(龍谷大学東洋史学研究会) 第四八、四九、五

〇・五一号

東洋史訪(兵庫教育大学東洋史研究会) 第四号

東洋大学文学部紀要 第五一集 史学科篇二三号

東洋文化学科年報(追手門学院大学東洋文化学科) 第一

二号

富山市日本海文化研究所報 第二〇号

栃木史学(国学院大学栃木短期大学史学会) 第二二号

奈良学研究(帝塚山短期大学奈良学会)

奈良佐保女学院短期大学研究紀要 第七号

寧楽史苑(奈良女子大学史学会) 第四三号

奈良歴史研究(奈良歴史研究会) 第四六、四五〇号



歴史人類（筑波大学歴史人類系） 第二六号

歴史と地理 第五〇六一―一七号

和菓子（虎屋文庫） 第五号

## 図 書

旧中村文書（伊丹市立博物館史料集二）

京都市所有の国宝・重要文化財（京都市歴史資料館）

群馬県行政文書件名目録 第十集 明治期福祉・衛生編

（群馬県立文書館）

群馬県立文書館収蔵文書目録 16 吾妻地区諸家文書一

（群馬県立文書館）

県境を越えた地域づくり 愛知大学総合郷土研究所編（岩

田書院）

源氏物語と和菓子展（虎屋文庫）

斎宮編年史料集 二（斎宮歴史博物館）

参勤交代年表 上 宝永七年より安永二年まで（柳沢史料

集成第七巻、柳沢文庫）

宗教と政治（仏教大学総合研究所紀要別冊）

地域研究を拓く（愛知大学総合郷土研究所研究叢書12、岩

田書院）

長野県立歴史館収蔵文書目録一 長野県立図書館移管文書

一

日本美術院百年史 第一〇巻（日本美術院）

豊後国香々地荘調査 資料集（大分県立宇佐風土記の丘歴

史民俗資料館）

明治新政府に残した小松帯刀の足跡・略年譜（小松帯刀研

究会）

立正大学蔵岡垣家文書 近世・近代編（立正大学文学部史

学研究室）

和菓子の歴史展（虎屋文庫）